

平成29年度第2回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

■日時 平成29年7月12日(水) 18時～20時45分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数19名に対して10名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ(後藤会長)

3 議事

(1) 協議事項

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証について

【会議の進行方法について】

担当課からKPI評価検証シートを用いて5項目程度まとめて説明を行い、委員から質疑応答を行う。(資料1:館山復興政策課課長補佐)

① 基本目標1について(資料2:各課より説明)

【NO.1～5について】

(委員) NO.4の復興公営住宅の完成率について、地域の偏りについてどのように考えているか。また、民間賃貸住宅において復興住宅の建設によって、入居者が震災前よりも少なくなっているという話を聞いている。民間賃貸住宅側とは情報共有を行っているのか。

(復興住宅課長補佐) 災害公営住宅については、供給計画を定め、将来的な市のバランスを考えながら実施しており、将来的な住環境の整備と合わせ、仮設住宅入居者の再建を最優先としている。今後、ストック計画や民間住宅等とのバランスを考えながら進めていきたい。

民間賃貸住宅のオーナーとの情報共有については、民間側の意見を聞きながら進めている。民間賃貸住宅については空きが出てくるのが想定されているため、今後必要に応じて民間借上げも含めた整備を検討していく。

(委員) 被災者の意見を伺うと、一人世帯、二人世帯の少人数世帯の需要が多い。少人数向けの住宅に供給計画を変更することは可能なのか。

(復興住宅課長補佐) 四人以上世帯を対象とした住宅に余剰が見込まれていることから、現在は整備をしていない。今後の計画では一人世帯用を中心に整備を進める予定である。

(委員) NO.5の市街地再開発整備では3つの再開発の整備が完了しているが、他にも再開発の計画(優良建築物等整備事業)があると聞いているため、それらを含めたKPIとするべきではないか。

(市街地再開発課長) 再開発事業と優良建築物等整備事業は両者とも民間事業であるため、民間からの整備要望で整備箇所数が変化するうえ、優良建築物等整備事業は法的根拠に基づく事業ではないことから、事業の状況が更に流動的となっているため、KPIに設

定することは難しくなっている。

【NO. 6～11について】

(委員) NO. 6について、先日オープンした「いしのまき元気いちば」の入場者数を教えてほしい。

(委員) 1週間で1万2千人の購入実績がある。月間で4万人ぐらいであれば、目標の購買者数40万人を達成できるのではないか。一般的に来場者(入場者数)は購買者の3.5倍としていることから、来場者数100万人という目標についても達成できるのではないかと考えている。日々、苦情や課題もあるため、ひとつひとつ解決しながら進めていく。

(委員) NO. 11の市民バスのネットワーク充足率実績が100%について、充足率という点では100%かもしれないが、北上地域においては土日の運行をしていないことから、違和感がある。また、防災集団移転団地等にも住民バスが回ってくる運行経路となっていないため、平成27年度の改善点に書いてある通勤・通学しやすいダイヤ編成にもなっていないように思える。北上地域では、復興応援隊が集落単位で独自の調査を実施していることから、今後の住民アンケート調査についても情報が連携されることを期待する。

(地域振興課長補佐) 住民バスについては、各総合支所単位で運行協議会を組織して、住民主体で運行を行っている。高校通学バスのあり方についても、運行協議会内で検討していきたい。また、移転団地への運行経路については、工事等でバスが移転団地に直接乗り入れしていない箇所もあることから、今後対処していきたい。

(委員) 北上地域においては運行協議会については、実態は住民主体とはなっておらず、総合支所で担ってもらっている実情がある。総合支所独自では、改善しづらいこともあるだろうから、住民主体で行えるように本庁からも働きかけ願いたい。また、北上地域の南三陸町側の地区では、高校生一人をバスで通わせるには1か月当たり3万円ほどかかり、これが北上地域を去ってしまう大きな要因となっているため、市側で対策できないかとの声がでている。

(地域振興課長補佐) 通学バスについては、行政が関与していない状態であるが、通学バスほどの手厚いサービスはできなくなるが、通学バスの役割を住民バスが担えるかも含めて検討していきたい。

(委員) アンケート等も見ながら、より住民に寄り添った進め方や意見の集約方法についても検討いただきたい。

(委員) 河北地区においては、運行経路が変更となる場合は、十分な協議を行っている。また、上品の郷にある停留所が大変日当たりがよいことから、日陰を探して待っている人もいる。その結果、バスが乗る人に気づかず素通りしているケースもあるようである。日陰を作ったりできないものか。

(地域振興課長補佐) 平成27年度に地域公共交通戦略を策定し、上品の郷はその中でも交通拠点となっているため、環境整備についても上品の郷側と協議しながら検討していきたい。

(委員) NO. 10の半島拠点整備について、事業があまり進捗していないように感じるが、どういう理由があるのか。

(半島拠点整備推進課長) 国、県、市の他事業が輻輳していることから、それらの調整に時間がかかっていることが原因である。半島拠点事業部ができたことから、各拠点について一層の加速化を図って行きたい。

(委員) 鮎川地区はとても進んでいるように感じられた。一方で、雄勝、北上地区は遅れているように感じたため、質問をした。

(委員) かわまち交流拠点の整備状況について、平成29年度に公共施設や立体駐車場が完成予定となっているが、立体駐車場利用料金や、かわまち交流施設の利用方法などの利用形態を教えてください。

(商工課長) 立体駐車場については、平成29年秋の完成を予定し、利用料金は30分まで無料とし、その後150円ずつ加算していく。なお、街づくりまんぼうと連携し減免制度も設ける予定である。また、かわまち交流センターについては、市民同士が交流したり、NPOが会議で使用したり、観光情報を展示し観光のハブ機能を持たせるようにした施設であり、交流スペースや少人数で利用できる会議室等を1時間200円程度で利用できるように考えている。

(委員) かわまち交流センターは、聞いただけではどのように利用してよいか分からない。観光案内機能を集約するであるとか、目的を明確にしなければ、市民がどのように使うことが可能なのか分からなくなる。

(商工課長) 利活用方法については、有識者、地域住民と協議を進めているところであり、本市を訪れた者がここにくれば、市全体の観光案内していただけるというような施設としていきたい。施設が完成するまでに市民の方々に施設の情報や内容をお知らせしていきたいと思う。

(委員) NO. 10について、雄勝地区中心部は整備が遅れている。雄勝中心部の防災集団移転暖地整備は進んでいるとのことであったが、本来は住む場所と一緒に周辺施設もできるべきであることから、防災集団移転側で評価が高く、拠点側で評価が低いという点は違和感がある。

(半島拠点整備推進課長) まちづくり協議会、ワーキング等で様々なご意見をいただきながら進めており、方針が決定したことから、完成にむけて進めて行きたい。また、県事業ではあるが、防潮堤事業も地盤づくり等の目に見えない形で事業は進んでいることも事実であり、今後ともしっかりと進めていきたいと考えている。

【NO. 12～17について】

(委員) 空き家対策について、高齢者一人暮らし世帯が入院等で空き家になったり、後継者が首都圏等に移住していることから、処分について困っている方がいることから、利活用だけではなく、処分についても対策していかないと抜本的な解決になっていかないので、引き続き検討してもらいたい。

また、NO. 15の津波避難タワーについて、階段しかないことから、不自由される方がいるのではないかと懸念している。今後、整備する際は、高齢者、障がい者への配慮もお願いしたい。(復興政策課長) 資料にあるように、管理不全状態のものについても、しっかりと対応していきたいと考えている。

(防災推進課長) 避難タワーは基本的に一線堤と二線堤の間の住居の無い地区に設置している。しかし、大宮町の避難タワーについては住居地域への設置なので、高齢者や障がい者のために担架等を設置している。また、現在、大街道小学校南側にポンプ置き場を新築予定であり、屋上を避難場所とする予定である。これについては、周辺の住宅に高齢者や障がい者が多いため、スロープ付きの整備としている。避難ビルの設置については、居住地となるが、事業者の方から協力をいただき指定したものや、復興公営住宅が指定されているため、原則は階段での避難となるが、ご理解いただきたい。

(委員) 螺旋のスロープだけで整備された避難タワーというものを聞いたことがあるのだが、整備する予定はあるのか。

(防災推進課長) 仙台市では、そのような整備もあるようだが、石巻市の場合、今次津波では津波到達までの時間が短いことから、階段整備を基本としている。

(委員) 空き家等対策について、北上地区の改修については、住民は市の事業で改修した物件だと知らず、また、北上総合支所においても情報を把握していない。また、借家として市費を投じて整備されていると思うが、市が一個人の所有物の資産価値を上げるような形で整備していることにも疑問があり、事業が終了したら整備建築物がどういう取り扱いになるのかが分からない。そのような状態では、この事業が移住促進や交流人口の増加につながるとは思えない。

(地域振興課) 地域住民への周知不足については否めないところがある。移住促進対策として、IT技術の研修所を整備した理由は、IT技術に関する労働環境を整備することにより、新たなIT企業の誘致による移住や、研修所で技術を習得した方による起業による交流人口の増加に繋がっていくものと考えている。事業をやっていない期間にはお試し居住として貸し出すようなことも検討している。

(後藤会長) 市としては、石巻にこれまで無かったITという分野を開拓することによって、若者を呼び込もうという投資であると考えられる。ただし、北上地域については、事前に説明等が無く、唐突であったことから、今後は地域の住民に対しての周知や地域住民も参加できるような仕組みとしてほしい。

(委員) 空き家等対策について、資料にある3番の管理不全の解消に特化していくべきではないかと懸念している。来年度に空き家等対策計画を策定することであったが、今回の意見を踏まえて早めに策定していただきたい。

(委員) 支えあいセンターの用地交渉について難航しているようだが、どのような進捗状況なのか。また、交渉が難航し続ける場合、支えあいセンターの計画を見直すのか。

(石巻駅周辺整備プロジェクト推進室長) 地権者への丁寧な説明や粘り強い交渉を続けており、早期の契約ができるように進めていきたい。

(委員) 用地交渉については期限を決めるべきではないか。用地取得が不可能なのであれ

ば、用地取得ができる範囲で計画を見直す必要があるのではないかと。
(石巻駅周辺整備プロジェクト推進室長) 期限はあると認識しているが、慎重に進めていることからご理解いただきたい。

(委員) NO. 12の防災センターについて、平時は使用せず、有事の際のみに使用するという噂を聞いたが、いかがなのか。また、NO. 15の避難タワー・避難ビルについてであるが、有事の際はカギをどのように解除するか、またその方法について周知されているかといった点が防犯と背反する形になるため、なんとか対策を講じていただけないか。さらに、NO. 17の空き家等対策について、個人の資産価値を上げるといった点が最も問題であるかと思うため、最終的にどのように対応するのかといった点についてしっかりと整理していただきたい。

※NO15、17については意見のみ

(石巻駅周辺整備プロジェクト推進室長) 防災センターの機能について、災害発生時には災害対策本部として機能する拠点となるが、平常時には市民の防災意識啓発等を行う学習施設でもあります。

② 基本目標2について（資料2：各課より説明）

【NO. 18～26について】

(委員) 泉町に漁業の担い手の住む場所があるとのことであるが、入居状況はどうなっているか。雄勝にも担い手が住む場所があるが、担い手から近くに住みたいという要望があるため、こちらの状況を確認したい。

(水産課長) 担い手センターは、泉町、荻浜、北上町、現在建設中である渡波の4箇所整備しているが、漁業種別ごとに分けて居住箇所を定めており、泉町は底引き網、荻浜は牡蠣養殖、北上町はわかめ養殖等で分けて入居していただいている。現在の状況は、泉町に1名、荻浜に2名、北上町に1名居住している。渡波に関しては完成後に募集を行っていく。

(委員) NO. 25の農林水産業新規就労者数について、今後、シェアハウスを整備していくことと思われるが、NO. 17の空き家と同様の問題になっているように思える。シェアハウスは入れ替わりが激しいのではないかと。今後は復興公営住宅も、空きが出てくると思われるため、そちらを活用した方がよいのではないかと。

(水産課長) 現時点では4か所を整備しており、研修もその場所で行っている。漁業者と連携していることから、その地区で受け入れしてもらえなければ漁業権取得もできないため、地区で受け入れられるように地域の漁協やフィッシャーマンジャパンと連携していきたい。

(委員) 地元の人たちと連携できるような仕組みづくりを行っていただきたい。

(委員) NO. 25の担い手育成に関して、漁業が取り上げられがちであるが、農業も石巻市の基幹産業として重要である。石巻市の気候は農産物には適したものになっている

と思われることから、担い手を育成していくことが重要である。にも拘わらず、農業に関する事業費が減っている理由を教えてください。また、K P I の実績がゼロとなっているが、実績に後継者が戻った場合は含まれていないのか。

(農林課長補佐) 事業費については、助成事業の実績となっており、要件が1回しか受けられないことが要因かもしれない。また、実績については、都市部から移住して農業をしたいという者を受け入れた場合、人数としてカウントする形となっている。

(委員) シェアハウスという形でやるのが最善とは思えないため、今後、農業を行っている方にホームステイする、空き家事業と連携して研修センターを試験的に設ける等、広い範囲で検討していただければと思う。

(委員) NO. 19の医療介護セミナーの参加者数について、外部からの人材を石巻に誘致するために開催されているものと思われるが、厳しい状況にあるように見受けられる。現在事業を実施する中で何か改善している点があればお聞きしたい。

(包括ケア推進室長補佐) セミナーが始まるきっかけとなったのが、震災時に開成診療所において医師が確保できていたことから、何かできないかということで始まったものである。しかし、市立病院に医師が運営スタッフとして入ることで、セミナーの担い手の確保が難しくなっている。市立病院は東北医科大学のサテライト施設としての役割もあるため、施設の研修体制が確立すれば、セミナーにもつなげていけるのではないかと考えている。また、医師会等と連携し研修会実施も予定されているため、そちらにも展開していければよいと考えている。

(委員) 若者が積極的に入ってくるような仕組みとして、たとえば観光と連携する等のいろいろな視点を持っていただきたい。

(包括ケア推進室長補佐) 今後はそういうところも視野に入れながら進めていきたい。

【NO. 27～33について】

(委員) NO. 32のオープンデータの活用についてであるが、2017年5月9日時点での13000件というのは、アクセス数かそれともダウンロードされて活用された件数か。また、分野としてはどのようなものが多いか

(ICT 総合推進室長補佐) ダウンロードされた件数である。分野としては避難所情報や、人口統計情報が多い。

(委員) 水産業や産業の情報についてはどうか。

(ICT 総合推進室長補佐) 昨日現在の情報ではあるが、魚種別水揚げ数については127件ある。

(委員) 移住という視点から、農業や水産業の担い手の方々に提供する情報として、リンクしてくるものであると考えており、非常に重要な事業であると考えているため、これからもがんばっていただきたい。

(委員) NO. 29について、今後の改善点の中で観光交流施設周辺の道路改良工事やアクセス動線の整備を行っていくとのことであるが、道路の整備状況が観光状況に影響を与えることは明白になっているため、いつまでに整備するかだけでなく、その間に車を

どのように通行させるか等も含めて、早めに情報提供していただきたい。

(商工課長) 実際に渋滞が生じていることは把握しており、改善に向けてできる限り対応していきたい。

(委員) NO. 30の道の駅来場者数についてであるが、二子団地もできてきており、周辺が活性化していくため、イベントの開催等は予定されているのか。

(河北総合支所地域振興課) 今現在は開催の予定は無いが、今後400世帯が増加することが見込まれるため、上品の郷に対して働きかけを行って行きたい。

(委員) 大々的に報道されたインバウンド対応の無料SIMカードについて、観光協会には情報共有されていなかったため、教えてほしい。

(ICT総合推進室長補佐) 元々インバウンド対策として、WIFI整備を想定していたが、WIFIでは整備した区域外へ出てしまうと使えなくなってしまうという課題があった。海外からの渡航者はWIFIよりSIMの方が主流であるとの話を受け、検討したところ、今回の取り組みとなった。

(委員) ぜひ、情報共有を早めに行っていただきたい

(委員) せっかく良いものを考えても、実際に事業を行う最前線を置き去りにして、事業を進めたせいで、実際に運用する段階で躓いてしまうのではないか。ぜひ、しっかりと情報を連携して進めてほしい。

(ICT総合推進室長補佐) 了承した。

4 その他

評価検証の提出方法について(説明: 大内主事)

5 閉会のあいさつ(阿部副会長)

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

(平成29年6月1日現在)

No.	氏 名	所 属	備 考
1	安 住 栄 一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿 部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか 創生協議会	副会長 出席
3	阿 部 都	いしのまき農業協同組合	欠席
4	あら 木 裕 美	特定非営利活動法人ベビースマイル 石巻	出席
5	おお 大 浪 茂	河北地区住民代表	出席
6	おの 小野寺 芳 一	七十七銀行石巻支店	欠席
7	き 木 村 美保子	いしのまきNPOセンター	出席
8	ご 後 藤 宗 徳	石巻観光協会	会長 出席
9	さい 西 條 拓 也	いしのまき農業協同組合	欠席
10	さ 佐 藤 清 子	河南地区住民代表	欠席
11	さ 佐 藤 尚 美	北上地区住民代表	出席
12	しな の 野 光一郎	宮城県漁業協同組合	欠席
13	しょう 庄 子 真 岐	石巻専修大学	欠席
14	はた 畑 山 実	日本労働組合総連合会宮城県連合会 石巻地域協議会	欠席
15	たか 高 橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	なか がわ 川 尚 仙	石巻商工会議所	出席
17	なが さわ 澤 貞 代	桃生地区住民代表	欠席
18	は 芳 が 賀 のぶ 幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
19	み 三 うら 浦 と 基 恵	石巻市地域婦人団体連絡協議会	欠席

(氏名の五十音順、敬称略)